

岩手県内の都市農村交流による経済効果

佐藤 嘉彦

(岩手県農業研究センター)

Green Tourism would Promote Rural Economic Growth: An Input-Output Approach

Yoshihiko SATO

(Iwate Agricultural Research Center)

1 はじめに

グリーンツーリズムによる地域の活性化を図るためには、都市住民のニーズ把握及び農村住民の対応方法の検討が必要であるが、各受け入れ機関ではこれらの検討が十分行われておらず、試行錯誤を重ねているのが現状である。

本報告では、平成11年度(1999年)における県内の宿泊付体験交流施設の利用実績調査から、産業連関表を用いて都市農村交流による経済効果について、実測値と農業ベースの仮設値で誘発効果を推計する。次に、交流からグリーンツーリズムへの発展過程と推進方策について検討する。

2 試験方法

(1) 県内85ヶ所の宿泊付体験交流施設から11ヶ所を選定し、利用実態調査結果及び岩手県産業連関表から、グリーンツーリズムに関する消費額を類推し、経済波及効果分析を行った。

(2) 平成7年度の岩手県産業連関表(182部門)を32部門に統合して分析に供した。また、雇用分析に用いた雇用表は岩手県では未作成のため、事業所統計、農業センサス等を用いて推計した。

(3) 「都市農村交流に関する意識調査」及び県内先進事例をもとに、交流からグリーン・ツーリズムへの発展過程と推進方策について検討した。

3 試験結果及び考察

(1) 宿泊付交流施設の運営実態

平成10年及び11年に調査した宿泊付体験交流施設は、運営主体により表1のとおりであった。

表1 平成10年度宿泊付体験交流施設の運営実態

施設の類型	市町村直営型	三セク型
宿泊定員平均値	22.7	34.5
宿泊実績(延べ)	3,582	20,647
客室稼働率	10.2	20.5
宿泊料金 素泊まり	3,125	3,683
1泊2食付	(自炊等)	6,067

市町村直営型は、安価な宿泊料金設定が魅力ではあるが、体験メニュー等のソフト整備が遅れているため、客室稼働率の低下とリピーター不足に悩んでいる。一方、第三セク

ター型は、充実した設備とイベント日対応の企画等で市町村直営型よりは稼働率は高いが、体験メニューの種類は十分とはいえない。客室数39室以下の平均客室稼働率は34%程度が望ましいといわれているため(表2)、体験メニュー

表2 ホテル旅館ハンドブックによる客室の適正平均稼働率

分類	稼働率(%)
大規模旅館(客室数150室以上)	50
中規模大旅館(" 70~149室)	48
中規模小旅館(" 40~69室)	42
小旅館(" 39室以下)	34

注. レジャー産業研究所調査結果による

の多様化による入込み客の増大が急務であると考えられる。

(2) 宿泊付体験交流施設の経済波及効果

当該宿泊施設における直接生産誘発額を集計した結果、商業部門は5.9億円、対個人サービスは10.7億円の計16.6億円であった。平成7年度岩手県産業連関表により計算した結果、第1次生産誘発額は11.3億円、第2次生産誘発額2.1億円であり、生産誘発額合計13.4億円、波及効果は1.81倍、誘発雇用者数は203人と推計された(表3)。

仮設値として、全額農業部門からの投入と考え積算した結果、第1次生産誘発額は13.0億円、第2次生産誘発額1.5億円であった。このことから、生産誘発額合計14.5億円、波及効果は1.87倍、誘発雇用者数259人と推計され、商業ベースより波及効果が高いと推察された。

波及効果は宿泊部門では低い、その他飲食や土産物品で高い効果が現れると考えられるため、農林水産部門での地域特産品開発や地域独自の飲食メニューの構築が重要であると考えられる。

4 まとめ

地域への波及効果は、直接的にはガイド・インストラクター、農産物販売による現金収入や、宿泊施設利用による利用促進が考えられる(表4)。

このように、外部との交流より地域独自の価値を再認識しながら、地域資源を利活用するシステム構築、住民自らが交流事業を企画運営することによる地域活性化の主体性を醸成する仕組みづくりが生まれると考えられる。

地域住民が主体的にかかわる運営形態については、地域

表3 グリーンツーリズム客消費額による推定生産誘発額・誘発雇用者数 単位：千円

第1次需要	第1次生産		第2次生産		生産誘発額		合計誘発雇用者数 (人)
	誘発額	雇用者数 (人)	誘発額	雇用者数 (人)	合計		
第1次産業	0	15,619	4	12,149	3	27,768	7
第2次産業	0	38,910	1	25,235	1	64,145	2
第3次産業	1,655,043	1,075,747	178	176,737	16	1,252,484	194
合計	1655,043	1,130,276	183	214,121	20	1,344,397	203

注. 平成7年度岩手県産業連関表による。(単位未満四捨五入のため、計が内訳の合計と一致しない)

第1次需要は調査対象施設の平成10年利用実績に施設利用者数、宿泊者数を乗じて算出した。

(施設利用者数：589,677人、内宿泊者数24,299人)

その他飲食費、土産品購入額は平成10年県内観光消費額より類推した(県観光課資料)。

宿泊施設の建設による波及効果は除外した。

顔写真又は似顔絵	氏 名	農 健太郎	連絡先	0197-68-×○△□
	得意なこと できること	山の植物や暮らしについて話しながら散策します。 秘密の場所に案内するかも!?		
	所要時間	半日	料金	1人 1,000円
参加可能人数 (最低人数～最高人数)	2～5人	必要なもの		歩きやすい靴、カップ、 水筒、リュック、ゴミ袋
実施日	毎週土・日曜日			
参加者に是非守ってもらいたいこと	むやみに植物を採取しない 山のルールを守ること 自分のことは自分で責任 を持って行うこと	自己PR		とにかく自然が好きで野山で遊 びまわっています。知らないこ と以外は知っていますが!?わか らないものは一緒に図鑑で調べ ましょう!

図1 体験インストラクター情報開示用様式(T市の事例をもとに改変)

住民相互が情報交換し、それぞれの得意分野をもとにした住民参加型のインストラクター制度が有効と考えられる。例として、図1に示す様式等で利用可能な地域人材リストを整備し、人材を活用することも重要であると考えられる。ここで得られた人材情報は、農業、商業、サービス業等の各産業間で横断的に連携を取り、情報の一元化とデータペー

ス化を図り、管内に周知し利活用するのも一方策と考えられる。これら、人・モノ・情報の整備により、従来の通過型の観光ではない、多彩な「体験型交流の旅」の演出が可能となり、グリーンツーリズムの新たな展開方策になるのではないかと考えられる。